

平成23年6月6日（月）

森と海に囲まれた小学校で森林教室

6月6日（月）、釧路町立知方学（チホマナイ）小学校で森林教室を行いました。同校は厚岸湾の西側に位置する尻羽（シレバ）岬の太平洋を眼下に望む高台に所在し、周りを国有林が囲んでいます。

森林教室は、最初に体育館に全校児童18名を集め、イラストパネルを使用し、天然林と人工林の成り立ちの違いや森林がどのように私たちの暮らしに役立っているのかなどをわかりやすく説明しました。また、学校周辺を撮影した航空写真を見せながら、森林と海との関わりについて説明しました。児童の多くの家庭は漁業を営んでいることから特に興味を持って聞いていました。その後、低学年と高学年に別れ学年に合わせた森林教室を行いました。

低学年（1～3年生）8名は、体育館で樹木のタネが子孫を残す工夫などについて、タネの模型を作成し、実際に飛ばして学びました。また、校庭に出てミズナラのドングリを埋めたり、木と草の違いや針葉樹と広葉樹の違いについて学びました。

高学年（5～6年生）10名は、校庭と隣接する国有林で、トドマツとアカエゾマツの葉の違い、エゾノコリンゴの花芽などを観察しました。また、林内に入り森林の成り立ちなども学びました。

当センターは、1年おきに同校で森林教室を実施しており、森林と海に囲まれた豊かな自然環境を活かした学習活動に引き続き協力していきたいと思っております。



← イラストパネルを利用した全体学習



ドングリ（ミズナラ）の種まき ↑